

「臨床検体から分離された侵襲性感染症原因菌の分子疫学解析と薬剤耐性化の経年的推移」に関する多施設共同研究に対するご協力のお願い

当院研究責任者 所 属 臨床検査科 職 名 副科長
氏 名 荻野 毅史
連絡先 電話番号 0570-08-1551 (ナビダイヤル)

このたび当院では、上記のご病気で入院・外来で受診された患者さんの検査で得られた菌株や診療情報を用いた下記の研究を、倫理委員会の承認ならびに病院長の許可のもと、倫理指針および法令を順守して実施しますので、ご協力をお願いいたします。

この研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8. お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願い致します。

1. 対象となる方

研究実施許可日～2026 年 3 月 31 日に侵襲性重症感染症の検査のために実施された培養検査（通常、無菌的な髄液、胸水、血液等）により肺炎球菌、溶血性レンサ球菌などのレンサ球菌が分離された患者さんを対象とします。

2. 研究課題名

研究名：臨床検体から分離された侵襲性感染症原因菌の分子疫学解析と薬剤耐性化の経年的推移

研究責任者：東京医科大学微生物学分野 中村茂樹（主任教授）

※多施設共同研究

3. 当院担当部署

埼玉県済生会川口総合病院臨床検査科 細菌検査室

4. 本研究の意義、目的、方法

ヒトに感染症を惹起する微生物は細菌・ウイルスなど多岐にわたり、それぞれの病原性のレベルも様々です。当研究ではヒトの予後に影響する病原性の高い細菌に関しての遺伝子レベルでのその

詳細を明らかにできる検索手法とまれな細菌の同定技術が利用できます。これにより全国各地の医療機関より侵襲性重症感染症から分離された病原細菌について東京医科大学微生物学分野にて精査解析することができます。迅速な解析により治療上の参考データとしての意義とそれらを蓄積していくことで世界の同様の成績と比較でき今後の医療の発展に寄与します。

5. 協力をお願いする内容

通常診療として実施された無菌検査材料における培養検査から分離されたレンサ球菌を用いて研究を実施しますので、本研究による新たな費用の負担や検体採取はありません。

担当臨床検査技師による診療録および検査データの閲覧をご許可ください。

6. 本研究の実施期間

研究実施許可日 ～ 2026 年 3 月 31 日

7. プライバシーの保護について

- 1) 本研究では、患者さんの個人情報は一切取り扱わず、誰のものか判らないように匿名化された方法でデータ処理を行い、結果を学会等で報告します。
- 2) 患者さんの個人情報と、匿名化した診療情報を結びつける情報（連結情報）は、当院のみで管理し研究責任者への提供はありません。

8. お問い合わせ

本研究に関する質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、試料・情報が本研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはいたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

埼玉県済生会川口総合病院

臨床検査科 荻野 毅史（当院研究責任者）

電話 0570-08-1551（ナビダイヤル）（平日 10 時～16 時）

以上